2001年7月23日

通院ボランティア通信

いどばた【No.13】

全腎協事務局

毎日本当に暑いですね。
熱中症や夏バテには十分気をつけて夏を乗り切りましょう。

★ 団体紹介④ ★

今号は、今年度から市の助成金を受けることになった神戸市の「ジャスミン」をご紹介します。助成金が決定するまでの道程と事故防止対策を中心に、事務局の池田さんにお聞きしました。記事は、「ジャスミン」副代表の高重靖さんが書いて下さったものです。
(「団体紹介」コーナーに番号をつけました。今までご紹介した3団体は番号がありませんのでご注意下さい)。

神戸市難病連送迎支援の会・ジャスミン

『ジャスミン』について

ジャスミンの花をご存じですか？ 小さな白い花がたくさん咲いて、決して派手ではないが、独特の輝きを感じさせます。どんなときにも変わらずに「通院に困った患者を助けたい」との素朴な思いを持ち続けたいとして、みんなでジャスミンの名前をグループの愛称にしました。

事務所を神戸市東灘区の透析クリニックに無償で提供していただき、専用車2台とマイカー4台を使って難病患者、透析患者の通院を支援しています。特色としては、患者が中心となって一般のボランティアも参加して、特に重度な患者のサポートを中心に送迎を実施しているため、神戸難病相談室の医師、看護婦さん、難病連などとの連携によって、ただ送迎を行っているだけではなく、訪問相談や研修など患者のニーズに合わせた支援とボランティアのレベル向上を常に図っていることです。

事務局の池田太一マネージャーは自身も透析患者ですが、「何かができる！ 何かをやろう！」を合い言葉にして、日夜前進している姿はメンバー全員の原動力となっています。

活動の経緯

【発足準備：社協や透析施設の協力得て】

ジャスミンでは、ボランティア活動についてまったく素人ばかりだったので、発足前に兵庫県腎友会神戸支部のメンバー数人で神戸市社会福祉協議会のボランティアセンターに相談に行った。同社協の担当者が熱心な方で、ボランティア活動の方法や送迎ボランティアに対する保険の手続きなどを丁寧に教えてもらった。そして、社会福祉医療事業団の地方分助成金申請書を手渡された。総額200万円の補助金であるが、早速事業計画を立てることにした。このときはジャスミンの会は準備段階であり、母体となる神戸市難病連として難病患者に対する送迎事業を実施する計画となった。同時に車両と事務所についてどうするかということになり、その時期に開院を予定していた坂井瑠実クリニックの坂井院長が支援を快諾して下さり、専用リフト付車両まで寄付していただいたことは、ジャスミンのスタートに計り知れない大きな力となった。

【開始：患者自身のボランティア活動に反響】

社会福祉医療事業団からの助成金交付も決定し、1999年1月、役員、会則などを決め、神戸市難病連送迎支援の会「ジャスミン」の設立総会を開催し本格的に活動開始となった。難病の患者がボランティア活動を行うと言うことで、5大新聞、NHKなど各テレビ局の設立総会への取材があり、ボランティアの申し込

みなどに大きな反響があった。

【助成金要望：理解得るまで根気よく】

その後、2000年度は、会費、寄付金に加えて、木口福祉財団からの100万円の助成金もあり、何とか活動を継続できたが、全市展開、車両の確保、経済的な安定を考えると、神戸市に対して何とか支援を要望しよう、ということになり、市役所の担当課である健康増進課や障害福祉課に資料を持って日参し、何度も交渉を重ねた。しかし、この不況と財政難のなか予算化への道のりは困難を極めていた。当初は、北九州市の例にならい、小規模作業所の線で進めたが、これは制度の趣旨と若干ズレがあったため無理となった。しかし、神戸市難病連も強力にバックアップし、市の上層部への要望、市議会議員との懇談など、機会あるごとに要望をつづけた。

【実績ある難病連が力に】

そして、2000年度の末になり、神戸市難病連の事業として市社会福祉協議会から事業補助を受けることが決定した。つまり「ジャスミン」は、神戸市難病連の1事業を担うことで、難病連から財政支援を受ける、という方式だ。難病連は20年近くの歴史があり、相談事業や介護研修事業など、市からさまざまな事業委託を受けている実績を持つ。その新たな事業として「ジャスミン」が難病患者の通院支援を行うわけだ。2000年度は新規車両購入費として300万円、2001年度からは毎年200万円が予算化されることになった。

今後は、この資金をベースに会費、寄付金なども積極的に集めてより安定的に活動基盤を整備したいと考えている。

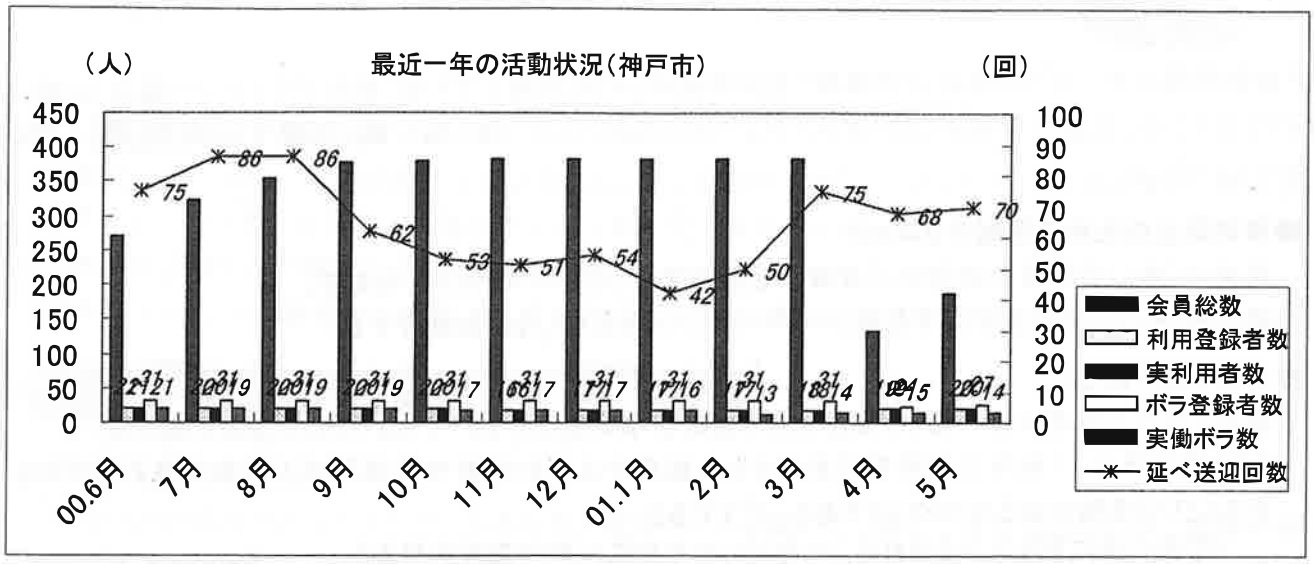
『ジャスミン』のしくみ

運営母体	神戸市難病連	1999年1月発足
サービス内容	自動車による障害者・難病患者の通院・外出支援	
送迎対象地域	神戸市及びその周辺	
利用対象者	神戸市に在住又は通院している透析患者など難病患者	
利用者負担	年会費／1,000円、利用寄付／400円（ただし10km以上は1km毎に40円加算	
事務局スタッフ	コーディネート業務1名、利用面接は難病連の医療スタッフ	
事務所	透析クリニックの一室	
車両	マイカー4台、ミニキャブ1台、リフト付きワゴン車1台	
保険	ボランティア保険、送迎サービス補償制度、所有車両の任意保険	
財源	利用会費、賛助会費、寄付金、民間助成金	
支出（経費）	車両維持費、ガソリン代、会議費、通信・印刷費、食事交通費（事務局・ボラ）ほか	
行事（研修会等）	総会、ボランティア研修会、会報「ジャスミン」発行	
協力団体	神戸市社会福祉協議会、坂井瑠実クリニック、NPO兵庫県腎友会	

＊「ジャスミン」の詳しい話を聞きたい方は、「ジャスミン」事務局の池田さん（078-842-1786）または兵庫県腎友会高重さん（078-371-4382）までお問合せ下さい。

『ジャスミン』の活動実績

	00.6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	01.1月	2月	3月	4月	5月
会員総数	270	323	354	377	379	382	384	384	384	384	134	189
利用登録者数	21	20	20	20	20	16	17	17	17	18	19	20
実利用者数	21	20	20	20	20	16	17	17	17	18	19	20
ボラ登録者数	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	24	27
実働ボラ数	21	19	19	19	17	17	17	16	13	14	15	14
延べ送迎回数	75	86	86	62	53	51	54	42	50	75	68	70



★ 大丈夫ですか？ 事故防止～運転研修で安全性UPを～ ★

ボランティアは、プロのドライバーではありませんが、やはり「安全第一」です。実施団体では、どのような事故防止対策をしていますか？　ボランティアさんは、「自分だけのときは荒くても、利用者さんを乗せるときは安全運転」というほど、基本的に慎重な方が多いのですが、講習を受けてみると忘れている交通ルールがあったり、利用者にとっては怖い行為があったりするものです。

◆前述した神戸市の「ジャスミン」では、「ドライバーの心得」を作成して配ったり、リフト車の使い方を講習するなどして、利用者が安心して乗車できる運転をめざしています。以下に「ジャスミン」で行っている運転ボランティアへの研修をご紹介します（「心得」は別紙参照）。

初めての運転ボランティアさんへの研修

＜リフト車の場合＞

＊ボランティアさんに車いすに乗ってもらい、リフト車に乗せる。揺れが大きく、普通車と違って怖いことが分かる。

＊患者さんに対する接し方をアドバイスする。声かけすることで安心して乗れること等。

＊初回はコーディネーターが運転の模範を見せる。2度目は利用者を乗せ、助手席に同乗して運転技術を確認する。

＜普通車の場合＞

＊車のタイプと利用者の身体状況を見て、乗込みやすい座席を選ぶようにアドバイスする。

＜リフト車・普通車両方＞

＊「ジャスミン」は、自力で歩けない重度の患者を中心に送迎しているため、ボランティア研修会で「車いすの押し方」「移乗の介助方法」などの介護講習を行っている。

「ジャスミン」の
ボランティア
ドライバー心得

1. 急ブレーキを踏まない
2. 急加速をしない
3. 急ハンドルを切らない
4. リフト車の車椅子の固定をしっかりする
5. リフト車のリフト操作は安全を確認しながら落ち着いてする
6. 車のスピードは制限速度の(5km～10km)以下にする
7. 通院介護中、何かの問題があれば事務局へ連絡して指示を仰ぐ
8. 利用者さんの身体のことを理解する（プライバシーを守る）
9. 利用者さんを慌てさせない、ゆっくり誘導する

◆非営利移送サービス団体の全国組織「全国移動ネット」に加盟している「秋田ボランティア協会」に問い合わせたところ、代表の菅原さんは「ボランティアだからといって、何も知らずに活動するのは危険」とおっしゃっていました。

●事故防止のための運転テクニック

車両に「車いす利用者送迎中」「身障者送迎実施中」などのステッカーを貼る。
他のドライバーに注意を促すため、ハザードランプを点灯しながら走行する。

●事故を防ぐ難しさ

運転ボラは退職者が多いため、加齢に伴う視野狭窄や急なめまいでちょっとした事故が起きる。
リフト車の場合、「車内で利用者が車いすから転落する」「利用者や付添いの人が車の揺れでケガをする」という危険があるのでゆっくり走る。そうすると…、
①他の車に割り込みをされる。→急ブレーキを踏み車内事故が起きる。
②後ろから追突される。→もらい事故が起きる。

●運転者講習が大事

大きな事故でなくても送迎中の事故は日常的に起こっている。係争中の民事訴訟が全国で数件。
民事訴訟では、過失の度合いを判断される。訴訟が起きれば団体もボラも責任を問われるので、
そういう微妙なバランスの上に活動が行われていることを知っておくべきではないか。
＜運転者講習＞
警察や交通安全協会や免許センターで相談すれば、講師派遣の窓口を紹介してもらえる。

お知らせとお願い

アンケートにご協力をお願いします★

「いどばた」読者アンケートを同封しました。「いどばた」は、県組織の役員さんや送迎実施団体のスタッフの方々向けの通信として13号まで発行されましたが、読者の皆さんがどのような情報を必要としているのか、ご意見・感想をお寄せいただきたいと思います。

円卓会議「高齢者・障害者を対象とした移送サービス」の報告

5月28日に、「市民がつくる政策調査会」主催で非営利移送サービスに関する会議が開かれました。この「調査会」は、市民団体や国会議員、有識者等で構成される団体で、市民生活や市民活動の様々な課題について定期的に円卓会議（懇談会）を行っています。

今回は、東京ハンディキャブ連絡会を中心に移送サービス団体関係者が約20名、国土交通省と厚生労働省から約10名が出席しました（「連絡会」発行の FAX ニュースに会議報告が掲載されましたので、添付します）。